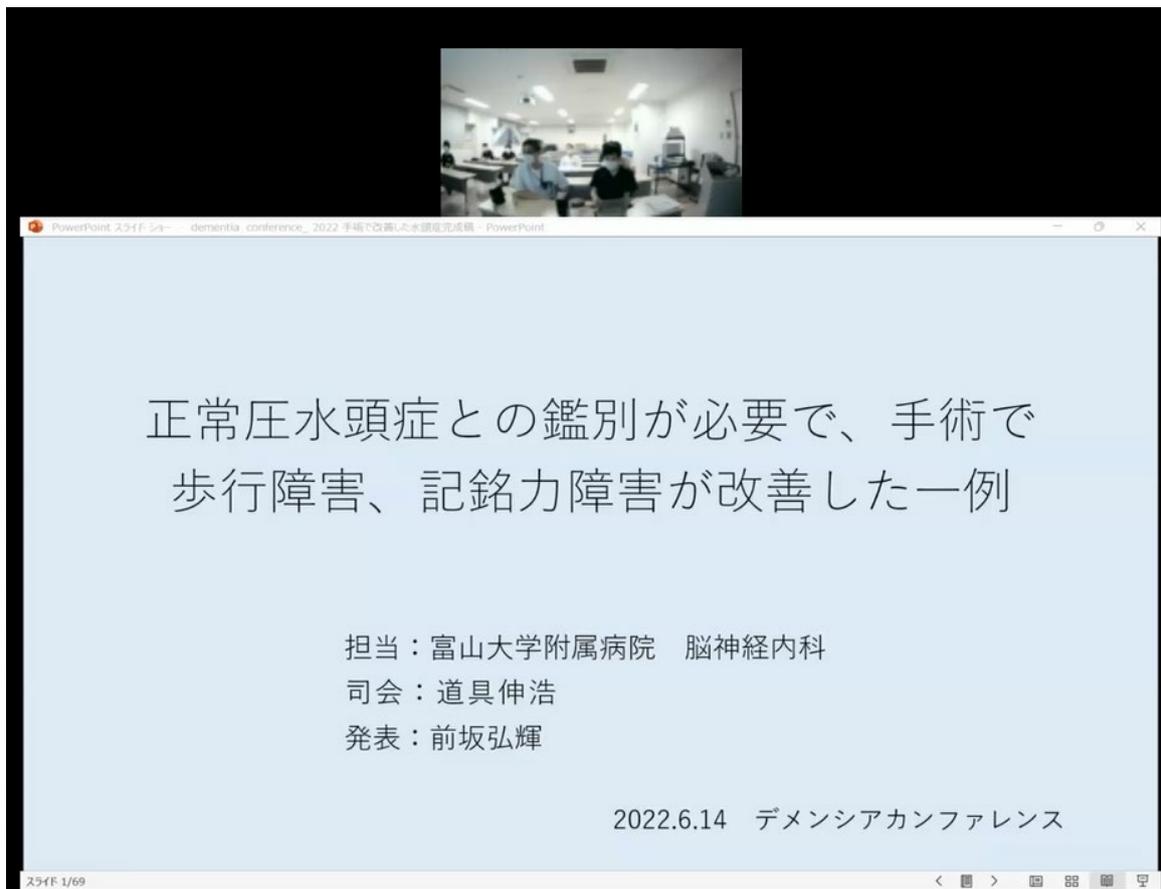


第85回デメンシアカンファレンスを開催

2021年6月14日

6月14日（火）に富山大学が担当する北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）「第85回デメンシアカンファレンス」をWeb上で開催しました。

「正常圧水頭症との鑑別が必要で、手術で歩行障害、記憶力障害が改善した一例」のタイトルで、富山大学からの症例報告で進められ、活発に質疑応答や意見交換が行われました。



第85回デメンシアカンファレンス 報告要旨

『正常圧水頭症との鑑別が必要で、手術で歩行障害、記銘力障害が改善した一例』

発表者：前坂弘輝（富山大学附属病院 脳神経内科）

司会：道具伸浩（富山大学附属病院 脳神経内科）

【要旨】

症例は61歳男性、急性に出現した歩行障害、記憶障害を主訴に前医受診し、頭部MRIで著明な水頭症を認め当院に紹介された。歩容はややwide-basedであった。HDS-Rは21点で遅延再生優位に障害されていた。自宅で尿失禁と便失禁を1度認めた。頭部MRIでは側脳室、第三脳室、第四脳室、小脳下のクモ膜下腔まで拡大していた。MRI-CISS法では明らかな隔壁は認めなかったものの、cine-MRIにてMagendie孔での髄液の移動を認め、Blake's pouch cystと診断した。脳神経外科にて第三脳室底開窓術を施行し、HDS-R(21点→26点)、FAB(16点→18点)、3mTUG(14.4秒→9.1秒、37%改善)、Evans index(0.46→0.43)が改善した。

Blake's pouch cystは胎児期に消失するBlake's pouchが残遺する先天異常であり、しばしば小児期に水頭症を発症するが、高齢になってから急性に水頭症を発症する症例も報告されている。合併症の少なさから、VPシャントではなく第三脳室底開窓術が選択される。

【質問・意見】

質問：排尿の経過はどうであったか？

回答：元々自宅で1回尿失禁があったが、入院後は失禁なし、術後も失禁は訴えない。

意見：Blake's pouchの発音、「ポーチ」と言われていたが「パウチ」が正しいのでは？

回答：そうだと思います。失礼しました。



北陸認知症プロフェッショナル医養成プラン（認プロ）

第85回デメンシアカンファレンス(Web)

2022年6月14日(火)18:30～

「正常圧水頭症との鑑別が必要で、 手術で歩行障害、 記銘力障害が改善した一例」

発表者：富山大学附属病院 脳神経内科 前坂 弘輝

担当：富山大学

対象：認プロ参加施設及びその他の施設の医療関係者
(医療系大学の学生含む)

【参加方法】

・個人のパソコンからWeb会議システム(WebEX)を使用

・教育コース履修者、メディカルスタッフe-learning講座の登録者、認プロ参加施設の各委員・事務担当者には、事前に北陸認プロ運営事務局からメールで参加案内をお送りします。案内状のメールに従って会議にご参加ください。

・教育コース履修者の出席はオンライン画面にて北陸認プロ運営事務局が確認します。

・上記以外で参加を希望される方は6月13日までに氏名とメールアドレスを北陸認プロ運営事務局までお知らせください。

(ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp)

【お問合せ先】

北陸認プロ運営事務局

〒920-8640

金沢市宝町13番1号

TEL:076-265-2149

FAX:076-234-4208

E-mail:ninpro@adm.kanazawa-u.ac.jp

URL:<http://ninpro.jp/>